

事後評価報告書(日米研究交流)

様式2

1. 研究課題名:「工学－医学－生理学の融合による革新的リハビリテーション支援技術に関する研究交流」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 小笠原 司

2-2. 米国側研究代表者:ジョージア工科大学 ジョージ W. ウッドラフ機械工学研究科 准教授

Jun Ueda

3. 総合評価: B

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

工学(ロボティクス)を中心に、医学、生理学の分野にわたる成果が得られている。国際連携、および、工学的視点と生理学的視点という異なる視点からの協力により、筋骨格モデルに基づくリハビリテーション・トレーニングシステムの開発は、まさしく共同研究の成果であり、優れたものと認められる。

良い成果が出ているので、早いうちに社会還元がなされることを期待したい。

(2)交流成果の評価について

米国側の研究者は、我が国の出身で、かつ、日本側研究代表者の下で数年間共同研究をしてきた、と言う実績があるため、共通の興味に基づく実質的な協力が行われた。

共同研究のための双方向の相互訪問があり、また、2件の共著論文と5件の連名での国際会議・国内会議における共同口頭発表があったことより、しっかりした協力体制があったことが伺える。

一方、短期的な連携機関への訪問は多く認められるものの日本からの博士課程などの大学院生の長期派遣はなく、中長期の若手研究者の派遣も1名程度に留まっており、米国におけるワークショップやシンポジウムの開催実績もない。相互の若手研究者同士の協力関係は不十分であるように思われるので、参画した若手研究者の持続的な交流の実現を促す今後の活動を期待したい。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

このプロジェクトの共同研究体制は、我が国の研究者が中心となっており、その中に一部として米国の研究者が加わったものであった。計画されている今後の展開も、益々その形となって行くように見える。さらにダイナミックに、米国での活発な研究活動が一体化されることが期待される。